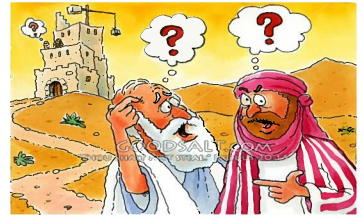


にれ はみ

2020年5月31日
聖日礼拝
使徒2：創世記11：1～9
「塔の事件と聖霊降臨」
説教 渡邊貞雄師



大洪水の後、バベルの塔の出来事が起こりました。神はなぜ建設を止めさせたのか、後半を「使徒の働き」のペンテコステと併せて開いてみましょう。

I、バベルの塔について

ここに「全地…」(1)とあるが、地球全体でなく古代の人が知っていた全地を意味している。彼らは同じ言葉で自由な生活をし、シンアル(シュメール)の肥沃な平地に移動して文明社会を形成しました(2)。人々は石をレンガに、漆喰を瀝青(アスファルト)に変え揺るぎない文明を造りました。

「焼きに焼こう」(3)の意味は、繰り返し徹底的に固くなるまで焼くことでした。防水に優れ接着力が大で圧力に潰れないレンガを完成させたのです。

そこで天に届く塔を建造、世界の頂点に立ち、功名心、名声、野望で偉業を後世に残そうとしたのです。自分たちが神となる(独裁者)の心でした。

II、神の対応はどうか

神は「降りてこられた」とある(5、7)。地上からは天まで達する様でも、神がご覧になれば、建物は小さく降りて行かねばならないものでした。神は

私たちの足元、十字架に降りてこられ人間の汚れを赦そうとされたのです。

神は天地創造で「生めよ増えよ地に満ちよ」と語り、ノアが船を出した時にも同様に祝福されました(1：28、9：1)。これは人口増加だけでなく、神が造られた世界に広がり、地上を愛と喜びと感謝で育み、管理する者となるようにだったのですが、彼らは離散しないようにと塔を建てたのです(4)。それで神は阻止するために、言葉を混乱(バベル、バビロン)させました。

III、ペンテコステとは

使徒たちは10日間、優先し祈った(使徒1：14)。十字架の出来事で、弱さを自覚し祈ろうと集まった。

その日、祈っていた彼らに聖霊が降り他国の言葉を語り出しました(2：1、4～8)。これこそバベルの地で混乱して離散した、人類の回復の光景なのです。神は統一された言語の回復ではなく、聖霊による全ての国の言語で、全ての人に福音が語られることを願われたのです。

神様を認め、心からの賛美を捧げ喜びを深く知る者とさせて戴きましょう。